香織倶楽部の面々

核廃絶への思いを講談に

高橋織丸

私が、演劇修業時代、一九七〇年（二十三歳）から約十年間、築地の中央卸売市場（魚市場）で荷扱い労働者として、二輪車の台車にマグロや鮮魚を積んで顧客の車まで運ぶ仕事をしていた。その頃、「ここに原爆マグロが埋められてあるんだよ」と教えてくれた労組の先輩がいた。

魚市場を辞めてから早三十六年の二〇一六年五月某日、（新木場の「第五福竜丸展示館」脇に仮置きされている）「マグロ塚」の写真と大石又七さん（第五福竜丸被曝者、「マグロ塚の会」発起人、二〇二一年三月逝去）のインタビュー記事等が掲載された新聞報道を読んだ。「あぁ、あの時に埋められた被爆マグロの碑を築地に移設する運動がまだ続いているのだ」と初めて知り、たちまち魚河岸魂が蘇った。時は急げとばかり、すぐに「マグロ塚の会」に入会。以来、間近で大石さんの話を聴き、大石さんが心血を注いで書かれた本を読み、さらには大石さんが参加の集会で二度ばかり語る機会を得る中で、何度か書き直しながら講談『マグロ塚の由来』が出来上がっていった。

私自身、父が戦時中、広島で被爆した体験を持ち、幼い時から毎年八月六日の八時十五分になれば、家族全員で黙祷し、被爆当時の話を聞きながら朝飯を食べるのが実家の習わしであった。しかし、東京に来てからは仕事や活動に追われ、次第に八月六日に黙祷することも忘れ、ヒロシマがだんだん遠い存在となっていった。反省の念もあってか、定年退職後は、ほぼ毎年八月には広島に通い始めるようになった。

来年三月はビキニ被爆七〇年、二〇二五年八月は、広島・長崎被爆八十年を迎える。今やヒロシマ、ナガサキ、ビキニの被爆体験者の大半が亡くなられへと。日本は「唯一戦争被爆国」で「過ちは二度と繰り返しません」と誓いを立てた国にもかかわらず未だ「核兵器禁止条約」に批准・加盟もせず、それどころか為政者が何の痛みも恥じらいもなく「核抑止論」や「核共有論」を平気で語り、「平和都市」広島市教委の児童生徒向けの平和教材から「はだしのゲン」と「第五福竜丸」が削除される事件まで起きている。

私自身、講談『はだしのゲン』を三十七年間語って来られた神田香織先生に憧れて十六年前に講談教室に入ったものの、「朝日」の「ひと」欄に「核を語る社会人講談師」として取り上げられたこともあったが、コロナ禍を理由に易きに流れ惰眠を貪り、これまでフクシマ原発事故を語った『フクイチひとり語り』、ビキニ被爆を語った『マグロ塚の由来』を発表したものの、肝心なヒロシマについては未だ語れていない。

「太平洋戦争とは輸送船攻撃から始まり、輸送基地たる広島へ原子爆弾投下で終わりを告げた」と言われ、帝国日本の補給と兵站を一手に担った船舶司令部があったのが軍都広島であった。その司令塔であった宇品の「暁部隊」に所属していた父（来年三〇回忌）の被爆体験にも思いを馳せながら、戦争の加害と被害の両面から新作講談『暁の宇品』を、「あらたな戦前」と言われる今日、遅きに失したことがなきように、遅くとも来年夏までには発表できたならばと。

森久織（ひさおり）

日常生活を講談に出来ないかとフト思いました。例えば此の様な題材は如何でしょうか。題して「婆さん可哀想物語」男はいつも通り朝早く車で会社へ向かう。街路樹は陽光に輝き犬連れ高齢者達が通り過ぎていく。通りは下り坂で先々まで見通せる。オット、横断歩道で立ち往生の婆さん発見。車は道交法無視で通り過ぎていくばかり。いつもなら男も同じだろうが、先週会ったばかりの母親の事を思い出したのか、どうにかブレーキをかけ婆さんに、「お渡り下さい」と手合図を送った。だが婆さんは無表情で横断していくだけだ。ヤレヤレと思っていたが、渡り切った老女は微かな会釈を返されたかの様にも見えて男は自分を納得させた。此の日、男は遅くまでの残業となり、途中ファミレスに立寄った。店内は空席多く快適。奥の窓際ボックスシートに座り好物のミートスパゲティ大盛とコーヒーを注文。すると真横のボックスシートに五人連れ家族がやって来た。両親に高校と中学の息子に婆さん一人。注文を決める迄はワーワーしていたが、発注すると親も子もスマホに夢中。取残された婆さんは話し相手もなくポツンと一人ボッチ。食事は黙ってお食べの行儀良さ。でも食後はまたまたスマホ三昧。見ていると支払いだけは婆さま任せ。可哀想な婆さん。男は二十年後いや十年後の己を想像し乍ら帰宅を急ぐのでありました。

老婆は一日にして成らず

豆腐と講談

福田織福

絹ごし豆腐派か、それとも木綿豆腐派かと議論になった。講談発表会の帰り道のことである。私は絹ごし派で、舌触りはなめらかで薬味との相性もいい。のど越しも絶品で、ちょいと甘めの酒を飲んだ時なんぞ至福が訪れる。すると相方は「おからでも食ってろ、この味音痴め」と切り替えしてくる。豆腐は木綿に限るそうだ。歯ごたえよく、じっくり味わえる。むろん栄養価も高い。醤油や薬味などに頼らずとも、塩一つまみあれば充分である。鍋物ならば他の食材の邪魔をせず、とは言え存在感は充分にある。講談師に例えるなら、朴訥ながらじっくり聞かせるタイプだそうだ。一本調子になりがちだけに上手には聞こえないが、一言一句記憶に残る。初心者に多いのかも知れないと。

それでは絹ごしタイプはと言うと、声調はなめらかで、上手な演出は笑いまで用意する。声の強弱で感情を自在に操り、時折見せる日常離れした声は凄みも出す。威圧を感ずる客もいるほどだ。はり扇の使い方も巧妙で、心地よいリズムは物語の世界へといざなう。流暢すぎて眠気を誘うこともあるが、そこは御愛嬌である。豆腐も講談もつるべ落としの霜月、じっくり味わいたいですね。

甲斐織淳（かい　おりじゅん）

今回は新作講談「房総・花物語」（戦時下で花を守り抜いた母と子）を発表します。

今年5月11日、朝日新聞の一面の「有事の食糧増産命令」という見出しに目が釘付けになりました。平和時の農業から有事（戦時下）の農業に大転換をするために「農業基本法」の抜本改正を行う、というものです。さらに、花農家に食料への切り替えを強制できるような法律の整備を検討する、となっています。「花禁止令」の再現です。この記事を見て、思わず房総半島に伝わる「花物語」を思い出しました。

千葉県房総半島は日本でも有数の花の産地。戦時下で、食糧増産が叫ばれ、「畑に花を植えると3年以下の懲役」という厳罰で花作りを禁止し、種と球根の一斉焼却が行われました。花を植え、種を隠す者は「非国民」「国賊」と糾弾されました。それでも、「花は心のごはん」と、花を守り抜いた母と子がいました・・・。

実話に基づき田宮虎彦が小説「花」を発表、この小説を堀川広通監督が高橋惠子主演で「花物語」として映画化しました。

「花禁止令」再び現実味を帯びてきた今、新作講談「房総・花物語」として発表します。どうぞ、お楽しみください。

相場織藤

以前いた教室を離れ昨年から香織先生の元で学ばせていただいておりますが、先生をはじめ教室生の方々に励まされながら楽しく続けられています。今回は松井須磨子を題材にした作品を演じますが、これは元の短い作品に自分で大幅に加筆して構成し直したものとなります。作品を考える上でも先生や仲間に率直な感想やアドバイスをいただき、大変助けとなりました。この場を借りてお礼申し上げます。香織教室の良いところは生徒の自主性が高く、運営も自分達で行っているところです。先生に全てを任せてしまうのでは無く、発表会で自分が出演しない時は裏方となって全員で支えます。出演者として高座にいる時も仲間の顔ぶれが目に入ると非常に安心できます。教室では皆で声を合わせて原稿を読んだり、一人ずつ回し読みしたりしてそれぞれの個性も知る事になります。和気藹々としてとても楽しい雰囲気ですので、是非多くの方々に参加していただきたいと思います。

渡辺イワオーリ

去年二月に入会しましたイワオーリです。もうすぐ二年目になろうとしています。本職はフラメンコギタリストでフラメンコダンサーの伴奏を主にしています。今の僕の目標は作曲をして音楽制作をする事と、ギターを弾きながら講談をやる事です。今回はその目標の一つのギター講談に初挑戦してみたいと思います。そもそもこれがやりたいが為に講談をやり始めました。この試みはこの先も試行錯誤しながらになるとは思いますが必ず面白い物を作れると確信していますので長い目で見守ってください。

山下智寿織

こちらに来ると、まだまだ知らない事がある事に気づかせてもらいます。又それを講談にしようとしている、創作なさる皆さんはホントに素晴らしいです。講談を学ばせて頂き、少しでも皆さんに近づけたらと思います。新人なので、子ども講談をさせてもらいますが、安兵衛よりも、私が最後まで行きつけるか、乞うご期待願います。宜しくお願いします。

渡邊織あ

みなさん、ご一緒に力声だしませんか？おりぁ～おりぁ～おりぁ～っと、織あです。

約十年前の事でした。寄席好きの義理の父が愛用していた形見の携帯ラジオから講談教室を案内する神田香織先生の声。さっそく本郷教室へと出かけその日のうちに会員に。ちょうど発表会があるということで、問題の一つとして取り組んでいたコンゴ民主共和国における紛争鉱物と性的テロを創作講談にして広小路亭」にて一席、飛び入り披露させてもらったのがご縁の始まりです。

（2018年にはコンゴの産婦人科医で人権活動家でもあるデニ・ムクウェゲ氏がノーベル平和賞を受賞していますが、まだまだ解決の道筋さえありません。）

月日はあっという間に流れるものですねぇ。実父が他界し家を継ぐ決心をして、姓も旧姓の渡邊に戻しました。また、一人暮らしの母をエンパワーメントしようと2期8年の議員活動を引退し自分時間も少しづつできてきますと、講談への愛がむくむくと湧いてきまして、実家栃木からリモート生として復帰。遠くからでも繋がって今までと変わらず過ごせますのは、コロナのお陰様かもしれません。

今回、復帰と同時に発表しますのはわんぱく竹千代です。自分のお尻に火をつけて必死で覚えようとしておりますが前途多難。どうぞ暖かい目で一席お付き合いくださいませ。

最後に、身体は遠くても心は一つ!と、ピンときた方がありましたらリモート教室へ！自己のうちに沸き起こる喜怒哀楽を表現する講談の効能をともに体感しましょう。

「南風講談教室のご紹介」神田香織

与野本町のカフェギャラリー「南風」さんは沖縄、八重山出身の山田ちづ子さんがオーナーで本場の沖縄料理もさることながら、手作りの品々の展示会、ピアノ演奏会などいろんなイベントを開催し地域の皆さんに愛されているお店です。5月には「はだしのゲン」公演もやっていただきました。また2年前から始めた子ども食堂は今は地域食堂として月一度開催。食事の他に参加型イベントもあるのでそれを楽しみに多くのファミリーが集い、私も時々娘と参加させてもらってます。

この南風ではカルチャー教室もあり講談教室は今年で3年目を迎えたまだ新しい教室です。今ではすっかり講談調子が身についてこれからがとても楽しみな皆さんです。お店での発表会は経験済みですが、サロンとの合同発表会は今回が初めてです。皆さん、どうぞよろしくお願いします。それから、与野に来たらぜひ南風に寄って美味しい沖縄料理を楽しんでくださいね。

神田香織の講談サロン「香織倶楽部」

半年６回コース。入会金１万円。
会費６回　12000円
テキスト代（CD付き）実費
会場：本郷文化フォーラム
文京区本郷3-29-10 飯島ビル１階
お申し込み papan@ppn.co.jp

本郷文化フォーラム地図

教室案内